

開催報告

分科会

2009年度第1回電子化分科会

—地域医療ネットワークのIT化 地域医療連携の現状と
これからのIT化の展望を問う!—

独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
臨床研究部 山本初実



会場風景

2009年11月12日(木)、
東京ビッグサイトで開催
された日本医療マネジメ
ント学会2009年度第1回
電子化分科会に参加させ
ていただき、『地域連携
ネットワークのIT化の現

状と展望』(黒部市民病院 今田光一先生)、『医療連携型
電子カルテシステムNet4Uによる医療連携の現状と評
価』(鶴岡地区医師会 三原一郎先生)、『脳卒中地域連携ク
リティカルパスのIT化とインターネットを用いた運用』
(香川労災病院 藤本俊一郎先生)、『地域医療の質向上を
目指した地域医療連携のIT化、あじさいネットの5年の
運用と広域化に向けての課題』(長崎大学 松本武浩先生)
の4つのご講演を拝聴致しました。

現在、三重県では三重大学と当院が中核となり、健康福
祉部の協働の下、三重がん診療連携クリティカルパスの
IT化を進めているところで、先生方のお話はとても参考
になりました。

要約致しますと、地域連携には、先行施設の情報共有
を共有する一方向型、専門病院の精査治療内容を共有する双
方向型、および、参加施設の医療内容すべてを双方向性
に共有する在宅支援型の3つのパターンがあり、医師会
の先生方など地域のニーズに応じた連携方法を、まずは
紙ベースで試行検討すること。その後、必要とされる標
準化された情報をシームレスに提供し、後の統計解析に
よって、地域医療の質の向上、さらには、情報共有による
診療支援・医療教育などの新たなサービスを提供でき
るシステムを構築すること。また、維持運営が可能な投
資額で連携による患者数増や医師の負荷軽減が見込め
るシステムを開発することも重要であると理解致しまし
た。

最後に厚生労働省医政局秋山祐治氏は、医療情報シ
ステムの安全管理の啓発、在宅支援や医療と介護の連携の

仕方の検討などこの分野に関する国の施策の進捗に関し
て説明されました。

今回の地域医療ネットワークのIT化に関するご講演
を拝聴し、上記必要十分条件の恩恵の中心は患者様でな
ければならないと確信し帰路につきました。

2009年度第1回医療連携分科会

宮崎県立日南病院医療連携科医長 木佐貫 篤



会場風景

今年度の医療連携分科
会は、2009年11月21日
(土)に日本医科大学教育
棟2階講堂において「医療
連携における薬剤情報な
らびに物流を考える」を
テーマに開催されました。

最初に武藤正樹国際医療福祉大学大学院教授より、基
調講演「医療連携における保険薬局の役割と期待」が行
われ、医療法改正により保険薬局が医療提供施設として
明記されたことで地域の医療チームの一員としての機能
強化が求められ、具体的にはスキルアップや退院前カン
ファレンスなどへの参加を通して地域医療連携に積極的
に貢献することが今後期待されると述べられました。

基調講演2「在宅がん患者サポートにおける保険薬局
薬剤師の活躍期待度～薬剤・物流のプロと連携するため
の他職の課題を考える～」では、永江浩史聖隷三方原病
院泌尿器科部長より、前立腺がん診療などの経験から、在
宅ケアにおいて薬剤師の力が現在十分に投入されていない
こと、薬剤師の力が連携医療のレベルアップにつながる
ので今後関わってほしいこと、また薬剤師が力を
発揮しやすい環境作りが必要であることが指摘されまし
た。

午後からは5名の発表者からの事例報告で、在宅中心
静脈栄養療法症例への関与、多職種連携における薬剤師
の役割、薬局の在宅コーディネータ配属の取り組み、患者
アウトカムを実現するための保険薬局の役割、訪問看護
ステーションからみた薬剤師への期待、などが発表され
ました。

発表とディスカッションを通して、病院内における薬
剤師の連携への関与不足、病院薬剤師と保険薬局薬剤師
の連携不足、保険薬局への患者情報提供の不十分さ、連
携室が保険薬局の機能情報を持っていないこと、など多
くの課題がはっきりと見え、これまで地域医療連携の現
場において、薬剤師の関与がほとんどみえていなかった